

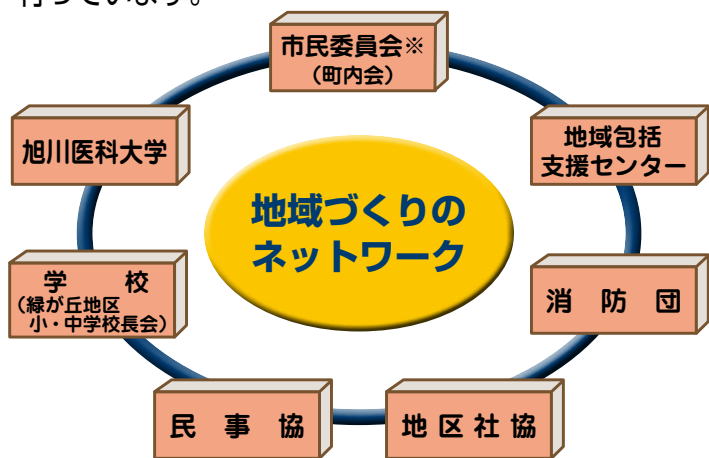
緑が丘まち協

令和4年度
広報

令和5年3月発行 / 発行者：緑が丘まち協広報誌編集委員会 < 緑が丘まちづくり推進協議会事務局：旭川市神楽支所 >

緑が丘まちづくり推進協議会は

様々な団体が、地域課題や解決策について意見交換を行っています。



※市民委員会

旭川市では、各地区の町内会が複数集まって「地区市民委員会」が組織されており、市内には現在63の地区市民委員会があります。

緑が丘・西御料地・緑が丘東・神楽岡東・旭神の5地区が「緑が丘まち協」の対象地区です。

令和4年度 委員紹介

会 長	石 塚 英 倶 (緑が丘地区市民委員会)
副 会 長	石 井 秀 幸 (神楽岡東地区市民委員会)
委 員	今 井 敦 (神楽・西神楽地域包括支援センター)
	大 瀧 政 尚 (旭神市民委員会)
	大 西 昭 和 (緑が丘東地区市民委員会)
	風 間 美 緒 (公募委員)
	倉 本 格 克 (緑が丘地区小・中学校長会)
	佐 藤 茂 (旭神地区社会福祉協議会)
	佐 藤 瑠 奈 (公募委員)
	武 田 英 夫 (公募委員)
	田 中 浩 (西御料地地区社会福祉協議会)
	辻 内 進 (西御料地地区市民委員会)
	藤 田 嘉 之 (旭川市消防団)
	梶 田 由美子 (緑が丘地区民生委員児童委員協議会)
	森 浩 美 (旭川医科大学)

ごあいさつ



緑が丘まちづくり推進協議会
会長 石塚 英 倶

緑が丘まちづくり推進協議会は、緑が丘地区にある5地区市民委員会や地域団体・各種機関等と行政が相互に連携し、地域の課題を解決するための意見交換を行っている組織です。

コロナウイルスの猛威がなかなか収まらない中、日程の変更など様々なことはありましたが、令和4年度も計画しておりました事業を全て無事終わることができました。皆様のご協力に感謝申し上げます。正常な日常までは今しばらくかかりますが、コロナウイルスと上手に付き合っていく時代なのかもしれません。皆様が元気にこの危機を乗り越えられますことを切に望んでおります。

緑が丘まちづくり推進協議会は、これからも地域の皆様のより良い生活に役立つ活動ができるように努力してまいります。ご支援、ご協力よろしくお願いたします。



議事録は市のホームページに掲載しています。

<https://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/kurashi/408/machikyuu/d063395.html>



今年度開催したまち協事業を紹介します

＝緑が丘地域防災事業＝

・防災リーダー研修会

日時 令和4年9月11日(日)
午前9時～午後0時

会場 緑が丘地域活動センター
グリーンパル

基調講演

『地域の災害危険性を知り、災害に備えよう！』

講師：旭川市防災安全部防災課 課長補佐 石川 秀世 氏



防災講習会 『どんなところ？避難所は。体験してみよう！』

避難所で使用する段ボールベッドや簡易トイレの組み立てを行ったり、旭川市が備蓄用非常食としているアルファ化米の試食などを行いました。

非常食試食



段ボールベッド組み立て



簡易トイレ組み立て



＝緑が丘地域防災事業＝

・遊んで学ぶ！防災キッズ

日時 令和4年11月13日(日)
午前9時30分～午後0時

会場 緑が丘地域活動センター
グリーンパル

地域の小学生の皆さんが、旭川医科大学の学生さん達のサポートを受けながら、段ボールベッドや簡易トイレの組み立てを行ったり、非常用持ち出し袋のチェック、防災かるたや防災クイズ、防災マップづくりなど、遊びを通して楽しみながら防災について学びました。



指導員による説明



段ボールベッド組み立て



簡易トイレ組み立て



おうちの防災チェック



防災かるた



防災クイズ



防災マップづくり



防災について考えよう



音 地域について、もっと知りたい！

～緑が丘地域の橋の歴史～



初代大正橋は、今から110年前、上川郡神楽村が村費年間総予算20,000円だった時代に、約8,900円をかけて大正2年(1913年)3月に架設しました。

(※神楽村は、昭和18年(1943年)に分村し、東神楽村が誕生)

長さ171m・幅6mの木橋でしたが、当時渡し舟に頼っていた村民は大いに喜びました。

明治46年(1913年)の完成予定でしたが、1912年に年号が明治から大正に変わったことから「大正橋」と名付けられました。

その後、昭和5年(1930年)、昭和18年(1943年)に架け替えられた後も、再三修繕を繰り返していました。

昭和25年(1950年)4月1日、上川郡東神楽村東聖地区(現旭神町)が旭川市に編入され、大正橋もまた旭川市の管理となりましたが、鉄道の路線・駅を持たない同村としては「絶対に廃橋にしない」という条件を付けていました。

昭和31年(1956年)6月21日に74,890,000円の工費をもって、長さ195m・幅6mの永久橋に架け替えられましたが、工事直前と工事中の二度、旧橋が流失する事故にも遭っています。

昭和41年(1966年)に旭川空港が開港、昭和43年(1968年)に神楽町が旭川市と合併したことにより、神楽岡も旭川市となりました。

昭和45年(1970年)、新住宅市街地開発法の適用を受けた緑が丘ニュータウン(当時は神楽岡団地の呼称)の造成事業が開始されてから一帯は急速な変化を遂げ始め、大正橋は空港・東神楽町・緑が丘ニュータウン往来の重要な橋と位置づけられましたが、如何せん幅員が大変狭い橋でした。



撮影年：大正2年



撮影年：大正期(推定)

(次頁に続く)

地域について、もっと知りたい！

～緑が丘地域の橋の歴史～



旧大正橋



現大正橋

現在の大正橋に下りる神楽岡1条4丁目と5丁目間の神楽岡1号線の坂は、以前は私有地であり、正式には大正橋には繋がっていませんでした。ゆえに、秋から雪が溶ける4月頃までは車の通行が不可能でした。

地域の先人は何年にも渡り地主と交渉を重ね、旭川市への売却を認めさせながら、来るべき車社会のために幅の広い永久橋建設へ行政とともに尽力しました。

平成6年(1994年)、長さ218m・幅15.5mの新大正橋(アーチ橋)が完成するに至り、渡り初めとなる開通式の先導は、緑が丘中学校マーチングバンドが務めました。

その間、昭和52年(1977年)に緑が丘と東光地区を結ぶ緑東大橋が完成。

平成3年(1991年)には、環状線橋となるツインハープ橋も完成し、北側が開通しました。



緑東大橋



ツインハープ橋

余談になりますが、当地区は大雪山系忠別岳を水源とする忠別川と十勝岳連峰ツリガネ山を水源とする美瑛川の間に位置しています。

明治23年(1890年)、永山武四郎はこの地に役人を送り調査させました。その時、美瑛川は硫黄分が多い水質のため飲料には適さずと報告を受けました。旭川市は忠別川から水道水を調達しており、その検査判断の高さは現在でも通用することに驚きます。

参考文献：「旭川の橋」(関根正次 著) ほか

健康長寿と ロコモティブシンドローム

日時 令和4年12月11日(日)
午前10時～午後0時

会場 緑が丘住民センター

講義 「ロコモティブシンドロームについて
～健康維持に必要な知識～」

講師 旭川医科大学病院リハビリテーション部
理学療法士 高山 拓也 氏

ロコモ度テスト (立ち上がりテスト、2ステップテスト、ロコモ25)
旭川医科大学の学生さん達のサポートのもと、参加者のロコモ度チェックを行いました。



ロコモティブシンドロームの基礎知識や、健康維持に必要な栄養や運動の知識について、具体例を挙げながら分かりやすくお話いただきました。

健康チェック (健康相談、血圧・棒反応・握力・体組成測定)



予防運動「ロコトレ」自宅でも実施できる簡単なトレーニング方法について、参加者全員で実践しました。



＝緑が丘地域世代間交流事業＝

・緑が丘地域ふれあい交流事業 ～チャレンジ・ザ・ニュースポーツ～

日時 令和4年12月18日(日)
午前9時～午後0時

会場 緑が丘地域活動センターグリーンパル



普段あまり体験したことはないけれど誰もが気軽に楽しめるニュースポーツ 10種や、竹馬や駒など昔ながらの遊びを通して、親子や世代間の交流を深めるとともに、地域の皆さんにスポーツの楽しさを体感してもらいました。



旭川医科大学医学部看護学科「地域包括ケア論」×緑が丘地区

緑が丘地区には数多くの教育機関があり、旭川医科大学はその1つです。旭川医科大学医学部看護学科には「地域包括ケア論」という科目があり、担当地区について重点的に学習しています。そこで、各学年の学習内容について紹介します。

1年生

▶地域特性把握

緑が丘地区の地理や自然、産業、歴史、交通、生活、住民、地域コミュニティ、社会資源について調べ学習し、緑が丘地区の特徴について考えました。

1・2年生は地域特性把握とインタビューの学びを合同発表会で共有します。



3年生

▶げんき種

「地域包括ケア実習」で、グリーンパルにて健康セミナーを実施します。4年生に助言していただきながら準備します。

3・4年生はげんき種の開催に向けて交流事業をしています。

4年生

4年間の学びの集大成として、自らが卒業後にどのように地域包括ケアに携わることができるかを考えます。また、3年生との交流事業で、前年度の「地域包括ケア実習」の実施に基づいた助言をします。



●1年生

●2年生

●3年生

●4年生

1～4年生

▶地域活動

4年間継続して地域活動に参加します。今年度もロコモ講座、防災キッズなど多くの活動に参加させていただきました。



2年生

▶担当地区紹介

チームM（緑が丘地区）に加わった1年生向けに、担当地区を紹介する資料を作成しました。

▶インタビュー

保育園にて子育て世代の皆様、グリーンパルにてサークル活動に参加している皆様、インタビューを実施しました。

▶学生が作成した緑が丘地区の紹介資料です。

この学生は、緑が丘地区を「幅広い年代が集う、緑豊かな暮らしやすい街」と表しています。

緑が丘地区 (チームM 2019年 担当M)

～幅広い年代が集う、緑豊かな暮らしやすい街～

生活
商業から通勤まで幅広い年代が暮らす地域です。食品スーパー・日用品店・郵便局など生活に必要な施設が充実しています！

医療
地域の中心部から、駅まで歩いて15分圏内にある。～高齢者にとって安心～

教育
0歳～14歳の人口割合は約15%地域の中で最も高く、緑が丘には13以上の教育機関があります。

メッセージ
緑が丘は旭川最大の緑豊かなため、緑が丘にとって身近な場所に感じられると思います。また、旭川市として多くのことを実現している地域の一部が隠れています。結果と目標を一緒に実現していきましょう！

地域住民の方へのインタビューや地域活動で様々な年代の方との交流を通して、緑が丘地区に暮らす人々の日常生活や特徴について理解することができました。来年度以降の学習も楽しみです。緑が丘まち協及び地域住民の皆様のご協力があり、緑が丘地区について学習できたことを心より感謝申し上げます。今後よろしくお願いいたします。

このページは私たちが担当しました！

緑が丘まち協広報誌編集委員 佐藤 瑠奈・風間 美緒
(旭川医科大学医学部看護学科2年)